

近畿学校保健学会通信

No.96

平成12年 5 月 2 日発行
近畿学校保健学会事務所
〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1
兵庫教育大学疫学健康教育学研究室内
TEL&FAX (0795) 44-2180, 2178
振替口座 01140-8-89516

第47回 近畿学校保健学会案内

(下記のように、学会を開催します。関心のある方はどなたでも参加できます。)

主 催 近畿学校保健学会
後 援 京都府教育委員会 京都市教育委員会
協 賛 京都府医師会 京都府歯科医師会 京都府学校薬剤師会

学 会 長 寺田光世 (京都教育大学教授)
事 務 局 長 井上文夫 (京都教育大学教授)
事 務 次 長 松浦賢長 (京都教育大学助教授)
事 務 局 〒612-8522
京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学体育学科保健教室
第47回近畿学校保健学会事務局
TEL : 075-644-8290
FAX : 075-645-1734 (共用)
銀行口座 びわこ銀行伏見支店
普通口座 513-263392 近畿学校保健学会第47回大会事務局

日 時 平成12年 6 月24日 (土)
会 場 京都教育大学 (京都市伏見区深草藤森町1)

会 費 正 会 員 : 3,000円 (年会費)
当日会員 : 2,000円 (当日会費)
学 生 : 1,000円 (当日会費)
院 生 : 1,000円 (当日会費)
会員懇親会費 : 5,000円 (自由参加)

運営についてのご案内

1 受付

次のいずれかの受付窓口で受付を済ませ、名札をつけて下さい。
(会費納入、懇親会出決、弁当注文の確認を兼ねて行います)。

- ① 座長、特別行事演者、名誉会員受付
- ② 評議員・正会員受付（府県別、五十音順）
- ③ 新入会員受付
- ④ 当日会員受付

2 発表者の方々へ

- ① 口演時間 7 分、討論時間 4 分です。
- ② スライド、OHP、ビデオなどは使用できません。
- ③ 各自で配布資料を発表時刻の30分前までに会場受付に100部ご提出下さい。
- ④ 前演者の口演が始まるときに、次演者は次演者席にご着席下さい。

3 座長の方へ

- ① 座長受付で受付を済ませて下さい。
- ② 前座長の登壇後に、次座長席にご着席下さい。
- ③ 受け持ち時間内の進行は一任しますが、進行が遅れないようにお願いします。
- ④ 後日の「学会通信」に「座長コメント」を載せますので、原稿を7月16日までに
お送り下さい。

4 昼食について

- ① 会場付近レストラン等が少ないので、受付での弁当予約をご利用下さい。
- ② 弁当の注文は当日11時までに受付で済ませて下さい。

5 手荷物について

手荷物預かりのサービスは行いませんのでご了承下さい。

6 駐車場について

駐車場が狭いため、お車でのご来場はご遠慮下さい。

会場はJR藤森駅（京都駅から奈良線で3つ目の駅）で下車徒歩3分、または京阪墨染駅で
下車徒歩10分のところです。

会場案内図

会場への交通機関

- JR利用者 JR京都駅よりJR奈良線でJR藤森駅下車
- 京阪電車利用者 京阪・墨染駅下車
- 近鉄電車利用者 近鉄・丹波橋駅で京阪電車に乗りかえ墨染駅下車
又は、近鉄・京都駅でJR奈良線に乗りかえJR藤森駅下車
- ※ JR藤森駅下車へ3分又は、京阪・墨染駅下車東北へ徒歩10分

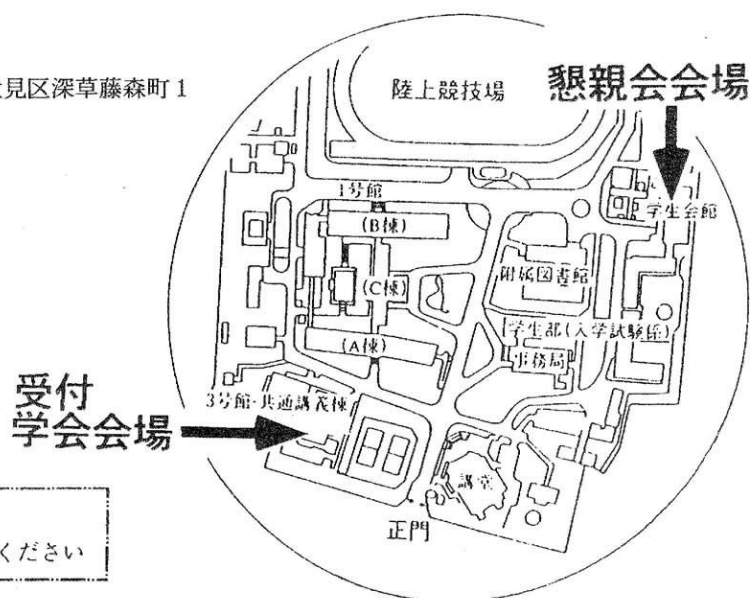
大学案内図



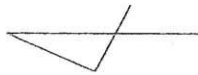
…学内図…

所在地》

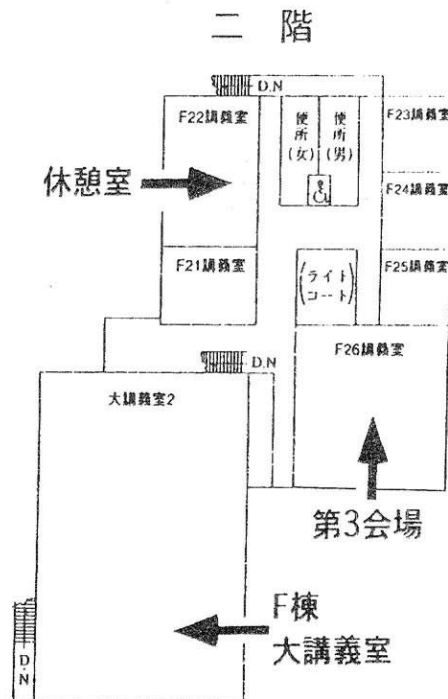
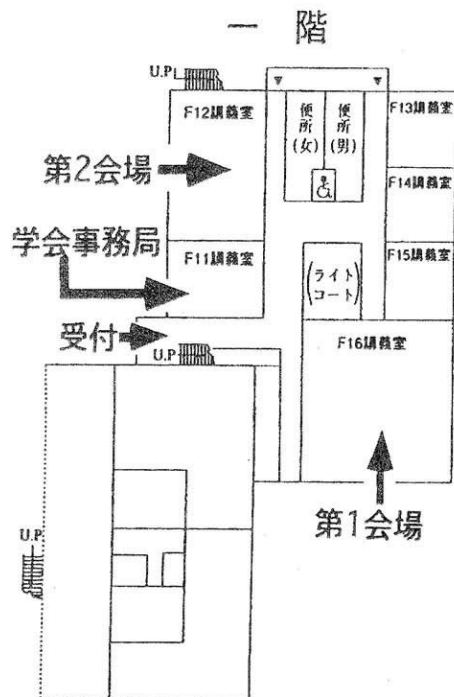
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1



お願い
車でのお越しはご遠慮ください



共通講義棟 (F棟)



日 程 表

9:30~	受付開始	
10:00 12:01	一般研究発表 第1会場 第2会場 第3会場	
12:01 12:30 13:10	評議員会（昼食） F棟大講義室	昼 食（40分）
13:10 13:40	総会（30分）F棟大講義室	
13:45 14:15	特別報告（30分）F棟大講義室 大学生の結核集団感染についての対応 講師 林 正（滋賀大学教授・保健管理センター前所長） 山本孝吉（滋賀大学教授・保健管理センター所長） 座長 忠井俊明（京都教育大学助教授・保健管理センター医師）	
14:15 15:35	特別講演（80分）F棟大講義室 少年犯罪と非行をめぐって -学校保健への新たな期待- 講師 山中康裕（京都大学教授） 座長 友久久雄（京都教育大学教授、京都大学客員教授）	
15:40 17:00	ワークショップ（80分）F棟大講義室 ロールプレイによる授業展開の理論と実際 講師 神澤 創（関西福祉科学大学助教授） 座長 寺田光世（京都教育大学）	
17:00~	会員懇親会 開始	

プログラム

1 一般演題 (口演 7 分・討論 4 分) 10:00~12:01

第1会場 F1646

健康教育・健康意識 (10:00-10:22) 座長 白木文代 (京都府教育委員会)

- 1-1 視覚障害者の歩行に関する児童・生徒の意識
○井上文夫(京都教育大学)、土井大輔(京都市立桂坂小学校)
影山功一(京都市西陣中央小学校)、藤原 寛(京都府立医科大学小児科)
- 1-2 教師から見た保健教科書
○藤原孝雄(大阪府泉北郡忠岡町立忠岡小学校)、白石龍生(大阪教育大学)

保健室 (10:22~10:55) 座長 板持紘子 (滋賀大学教育学部付属中学校)

- 1-3 養護教諭の保健学習担当に関する実態調査
○須藤勝見(大阪教育大学)
- 1-4 中学生の保健室登校に関する実態調査
○堀内康生、石井真理子、岡澤久栄、酒井有紀(大阪教育大学)
- 1-5 子どもの心を育てる養護教諭の役割
-教室空間での子どもの育ちにどうかかわるか-
○一井雅子(京都市立二の丸小学校)、堀 康廣(京都市立永松記念教育センター)

健康・体力(1) (10:55~11:28) 座長 白石龍生 (大阪教育大学)

- 1-6 中学女子長距離選手のBMIと競技記録の関係について
○小野伸一郎(舞鶴工業高等専門学校)、寺田光世(京都教育大学)
- 1-7 成熟と比体表面を用いた集団づくりが体育学習に及ぼす影響について
○五十嵐雅敬、三野 耕(兵庫教育大学)
- 1-8 身長と比体表面を利用した高校ボクシング選手の理想体重の算出方法について
○武元前川、三野 耕(兵庫教育大学)

健康・体力(2) (11:28~12:01) 座長 三野 耕 (兵庫教育大学)

- 1-9 文部省「新体力テスト」に関する一考察 一特に柔軟性に着目して一
○一枝千裕(大阪リゾート&スポーツ専門学校)、白石龍生(大阪教育大学)
- 1-10 スキー実習中のコンディションチェックに関する研究
○前田江美、加藤 弘 (和歌山大学)
- 1-11 運動強度の指標づくりに関する研究(3) 一女子大学クラブ活動の場合一
○下村尚美、倉敷千稔(神戸女子大学)

発育・発達 (10:00~10:44) 座長 大矢紀昭 (滋賀医科大学看護学科)

- 2-1 ダウン症生徒の最大発育年齢及び初経発来年齢
 - 吉岡隆之(神戸市看護大学)、藤田弘子(兵庫県立塚口病院)
 - 後和美朝(大阪国際女子大学)、
 - 綾部 捷(近畿知的障害養護学校研究協議会養護教諭部会)
- 2-2 発育期における血清レセプチンと骨強度の関係
 - 神谷和世、有田幹雄、武田眞太郎(和歌山医大・看護)、宮井信行、
 - 森岡郁春、宮下和久(和歌山医大・衛生)、藤井恵美子(神大・明石附属小)
 - 五十嵐裕子(神大明石附属中)、北口和美(西宮市立西宮高)、
 - 大橋郁代(西宮市教委)
- 2-3 加速度脈派からみた若年者における抹消循環の年齢変化 (第2報)
 - ー日本人とタイ人の比較ー
 - 宮井信行、森岡郁春、山本博一、宮下和久(和歌山医大・衛生)
 - 板谷裕美、神谷和世、有田幹雄、武田眞太郎(和歌山医大・看護短大)
- 2-4 子どもの身長の変異と生活の悩みとの関連性について
 - 西口万美子、三野 耕(兵庫教育大学)

生活習慣 (10:44~11:06) 座長 松岡 弘 (大阪教育大学)

- 2-5 肥満改善を目的とした生活習慣の自己評価について
 - 藤原 寛(京都府立医科大学)、井上文夫(京都教育大学)
- 2-6 学齢期小児の食習慣に関する研究 - Goshiki Health Study -
 - 永井純子、二方和也、釜谷仁士、勝野眞吾(兵庫教育大)、
 - 北山敏和(和歌山県教育庁)、吉本佐雅子(鳴門教育大学)

疾病管理・支援 (11:06~11:39) 座長 堀内康生 (大阪教育大学)

- 2-7 学校における喘息保健指導へのピークフローモニター活用
 - 山名康子(大教大附平小)、濱千賀子(中央高)、足立純子(堀川小)
 - 大鬚桂子(旭東高)、丹波弘子(神路小)、英加純子(桑津小)
 - 松永かおり(勝山小)、富田澄代(常磐小)、福嶋恵子(堀川小)
 - 檉原京子(日本橋小附属幼)、堀内康生(大阪教育大学)
- 2-8 思春期早発小児の看護支援のあり方
 - 田中明子、見岳誓子、西島治子、泊 祐子、
 - 大矢紀昭(滋賀医科大学地域生活看護学)
- 2-9 在宅医療を行う小児への多面的支援の試み
 - 中川喜美子、船戸正久、千代豪昭、杉田隆博、吉川邦彦他
 - (大阪府医師会勤務医部会・小児の在宅医療システム検討委員会)

結核 (10:00~10:22) 座長 山本公弘 (奈良女子大学保健管理センター)

- 3-1 結核の関する高校生の意識調査報告
○北野美波(大阪府立島本高校)
- 3-2 短期大学生のツベルクリン反応検査の結果 - 12歳時との比較 -
○辻あさみ、有田幹雄、村井静子、関根真由美、武田真太郎
(和歌山県医科大学看護短期大学部)

薬物 (10:22~10:55) 座長 横尾能範 (神戸大学国際文化学部)

- 3-3 周囲の人々からの圧力への対処に関する学習
- 学校健康教育での展開における課題 -
○西岡伸紀 (兵庫教育大学)
- 3-4 世界の薬物乱用の現状
○二方和田、永井純子、釜谷仁士、勝野真吾(兵庫教育大)
北山敏和(和歌山県教育庁)、石川哲也(神戸大学)
吉本佐雅子(鳴門教育大学)
- 3-5 アジア諸国における薬物乱用の実態と予防教育 (1) 香港
○勝野真吾、二方和田、永井純子、釜谷仁士(兵庫教育大学)
北山敏和(和歌山県教育庁)、石川哲也(神戸大学)
吉本佐雅子(鳴門教育大学)

性・性教育 (10:55~11:28) 座長 勝野真吾 (兵庫教育大学)

- 3-6 男子高校生・大学生のアダルトビデオ視聴回数と避妊・性病予防に対する意識・行動について
○山之上哲子、斎藤 太、松浦賢長(京都教育大学衛生学研究室)
- 3-7 世界のAIDSの現状と課題 - 学校におけるAIDS教育の基礎的研究 -
○名村雪子(兵庫県立姫路東高校)、永井純子、勝野真吾(兵庫教育大学)
- 3-8 展示式性・エイズ教育教材の制作とその評価
○松岡 弘(大阪教育大学)

心の健康 (11:28~11:50) 座長 金井秀子 (京都文教短期大学)

- 3-9 最近の高校生の不安・ストレスについて
○亀高美果(ヒューマン・アカデミー)、後和美朝(大阪国際女子大学)
北口和美(西宮市立高校)、白石龍生(大阪教育大学)
- 3-10 自尊感情尺度にみられる性差について
○宮慶美恵子(京都市立六原小学校)、松浦賢長(京都教育大学)

昼食 12:01～13:10

評議員会 12:30～13:10

場所:F棟大講義室

評議員はF棟大講義室にて昼食をおとり下さい。

総会 13:10～13:40

場所:F棟大講義室

議事:13:10～13:40

特別報告 13:45～14:15

場所:F棟大講義室

大学生の結核集団感染についての対応

講師 林 正 (滋賀大学教授・保健管理センター前所長)

山本孝吉 (滋賀大学助教授・保健管理センター所長)

座長 忠井俊明 (京都教育大学助教授・保健管理センター医師)

特別講演 14:15～15:35

場所:F棟大講義室

少年犯罪と非行をめぐって ―学校保健への新たな期待―

講師 山中康裕 (京都大学教授)

座長 友久久雄 (京都教育大学教授・京都大学客員教授)

ワークショップ 15:40～17:00

場所:F棟大講義室

ロールプレイによる授業展開の理論と実際

講師 神澤 創 (関西福祉科学大学助教授)

座長 寺田光世 (京都教育大学教授)

学会長挨拶 17:00～17:05

場所:F棟大講義室

懇親会 17:10～

場所:学生会館食堂

故 佐守信男先生のご逝去を悼む

本学会名誉会員の佐守信男先生は平成11年12月23日早朝、肺気腫によりご逝去された。
享年83歳であった。

かつて、「学校衛生の方向転換を命ず」として教育的学校衛生の確立を主張し、養護教諭の認定講習を含む現職教育を進め、「養護教諭の父」と慕われていた竹村一前教授（保健科担当）の後任として、昭和33年6月大阪大学医学部衛生学教室の講師から、神戸大学教育学部の助教授に着任された佐守先生は、同年12月には教授に昇任された。その翌年の昭和34年から、先生は『教育衛生学』を教育学、教育心理学と並ぶ教職専門の必修科目（2単位）として開講され、卒業の要件として教育学部の全学生が受講するという、神戸大学の特異なカリキュラムができた。当時、教育学部の教授会は、教員養成における教育衛生学の意義を確認し、大学自治の範囲で実現可能な措置であるとして、教授会での合意のもとに、昭和55年佐守先生が定年退官されるまでの20年間一貫してこのカリキュラムは続いた。

ところで、昭和39年9月25日付でその年の日本学校保健学会の会長であった金沢大学の村上賢三先生の名で、教育職員養成審議会会長高坂正顕にあてた“「教員養成のための教育課程の基準について」に関する意見書”をみると、

小学校教員養成の課程における専門教育科目について、次のように授業科目を開設し履修させる。

- (1) 教育原理（初等教育を中心とする）4単位
- (2) 教育心理学（児童心理学を含む）4単位
- (3) 教育衛生学（学校保健学を含む）4単位

中学校教員養成の課程における専門教育科目について次のように授業科目を開設し履修させる。

- (1) 教育原理（中等教育を中心とする）4単位
- (2) 教育心理学（青年心理学を含む）4単位
- (3) 教育衛生学（学校保健学を含む）4単位

としている。さらに同審議会が「学校保健」2単位として答申を出したのを受けて、同年秋の第11回日本学校保健学会の総会において、教育課程の基準改正に関する同様の要望書を日本教育大学協会委員に提出し、その実現に努力することを決議している。この要望は結局は、「学校保健」が教職専門の選択科目のひとつに取り上げられるにとどまった。

そして、第16回日本学校保健学会の特別講演『学校保健と教育』で佐守先生は、
——教科の教師の場合においても、教科専門のほかに、教育の目的としての健康にかかわる教職専門が、その仕事のなかで生きていなければならない。これと同様に、学校保健が学校現場で市民

権を得るためには、学校保健関係者は、まず学校保健の専門としての健康、すなわち医学的用語で語る健康の保持増進に専門的知識と技術と卓見をもっていなければならないのはもちろんのことであるが、教職専門に属する教育の目的としての健康が身につけていなければならない。いいかえれば、学校保健の本質には＜学校保健の専門としての健康＞と＜教育の目的としての健康＞が、同じ健康という言葉を媒介として、存在しなければならない。それでは、各教科の教師も学校保健の本質においてもなければならない教職専門に属する＜教育の目的としての健康＞という概念は、どう考えるべきであるか、ということが問題になる。われわれは、10年前から、神戸大学教育学部で＜教育の目的としての健康＞について研究と教育をする新しい学問を構築し、これを「教育衛生学」と名づけ、全学生に講ずべき学部必修の教職専門科目として開講している。——と述べている。

さらに、昭和40年から新たに設置された神戸大学教育専攻科においても教育衛生学専攻部門の柱を立て専攻生の教育と研究を指導するなど教育学部の教育研究体制の充実に寄与された。

また、昭和37年4月、神戸大学教育学部が基礎資格として看護婦の免許を有する者に対する一年課程の養護教員養成機関の指定を受けた後は、その運営の責任者として充実・発展に尽力された。後に特別別科となったが、先生の教えを受けた個性豊かな養護教諭は700名を超え、全国の学校現場だけでなく、地方教育委員会の学校保健係長や指導主事としても活躍している。一方、昭和34年から神戸大学保健委員会委員として保健管理センターの設立・発展に務めたのをはじめ、教育学部の統合移転に際しては新学舎建築委員長として環境衛生に十分配慮した学舎の設計に当たるなど、各種委員会の委員長を歴任され、附属学校長、評議員も併任し、大学、学部の管理運営に大きく貢献された。

ところで、先生の近畿学校保健学会でのご活躍は、昭和34年から評議員・幹事として常に学会の運営に貢献してこれ、昭和40年、同46年にはそれぞれ第12回、第18回学会の会長を務められた。これらのご功績を顕彰して、本学会は、昭和63年の総会において先生を名誉会員に推挙している。先生の学会活動は、ひろく日本学校保健学会、日本衛生学会、日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会に及んでいる。

さらに社会的活動として、昭和37年に西宮市幼児教育審議会委員、同43年に神戸市校外学習等調査会委員、同49年～55年には西宮市学校保健調査研究委員会委員長を務められた。また昭和41年、同43年、同44年と全国大学保健管理協議会研究集会環境衛生分科会会長。同43年保健指導の手引き作成協力委員、同45年学校保健百年史調査委員、同47年幼稚園教育研究集会責任者として尽力された。また、昭和43年～46年と同48年、同52年に全国学校保健研究大会講師、同51年神戸市10大都市学校保健協議会講師、同51年養護教諭中央研修会講師、同54年学校環境衛生講習会講師などを務め、学校保健、健康教育、幼児教育分野の社会活動にも多大の貢献をされた。

先生の代表的な著書として、『人間の歴史的な自然—教育衛生学序説—』（六月社、昭和40年）、『幸福への賭け—科学的教育論—』（創元社、昭和44年）、『愛と創造のデッサン—幼稚園教育と教育—』（学習研究社、昭和47年）、『第二創世紀と人間—ホモ・クルティル—デンスー』（講談社、昭和54年）

があるが、いずれも哲学書といってもよい、味わい深い力作である。

来るべき21世紀は、「脳の時代」「心の時代」といわれ健康教育の脱皮が強く求められている。わが国の政府も、ようやく中央教育審議会を通じて従来から進められてきた教育改革の検証にあらためて取り組もうとしている。この時期に、健康な人間のこころを追い求めてこられた先生を失うことは、惜しみても余りあるが、今はただ先生のご冥福を心からお祈りしたい。 合掌

(武田眞太郎)

平成12年度会費納入について

平成12年度年次学会での研究発表は共同研究者を含めて学会員でないと発表できませんので入会を希望される方および発表者は平成12年度会費3,000円を学会事務所まで納入されますようお願いいたします。

近畿学校保健学会事務所 郵便振替口座 01140-8-89516

平成12年度 近畿学校保健学会総会

近畿学校保健学会会員各位

学会幹事長

会則第16条により下記のように学会総会を開催しますので会員各位の参加を要請します。

記

1. 日 時 平成12年6月24日（土） 12:30～13:40
2. 場 所 京都教育大学F棟大講義室
3. 議 案 (1) 会務報告
 (2) 平成11年度決算について
 (3) 会計監査報告について
 (4) 平成12年度予算案について
 (5) 平成12,13年度役員改選について
 (6) 名誉会員について
 (7) 次期学会開催地および会長について
 (8) その他

以上

平成12年度第1回幹事会議事録

日 時 平成12年4月8日（土）午後2時～5時
場 所 京都教育大学
出席者 猪尾、板持、上延、大山、勝野、金井、北村、白石、妻形、寺田、
林、松岡（勇）、美崎、八木、山本、横尾（敬称略、50音順）
委任状提出者 12名
オブザーバー 井上（第47回近畿学校保健学会事務局長）、
三野（第48回近畿学校保健学会会長）

審議事項

1. 第48回近畿学校保健学会（兵庫）学会長について
兵庫県より三野耕兵庫教育大学教授が推薦され、承認された。
2. 第47回近畿学校保健学会（京都）プログラムについて
第47回近畿学校保健学会長の寺田光世京都教育大学教授から年次学会プログラムの概要が説明され、了承された。なお、ワークショップの座長は寺田学会長に、一般口演の座長は年次学会事務局に一任することとされた。
3. 平成11年度会務報告について
原案が了承された。
4. 平成11年度決算について
原案が一部修正された。なお、埼玉大学へ転出され、本学会を退会された戸部秀之監事の後任として幹事長から中神勝京都ノートルダム女子大学教授が推薦され、承認された。決算案は石川哲也、中神勝両監事による監査を受けた後、次回の幹事会で承認を受けることとされた。
5. 平成12年度予算案について
原案が了承された。
6. 平成12年度評議会、総会の議題について
原案が了承された。
7. 新評議員の推薦について
各府県の代表幹事から新評議員の推薦が行われ、承認された。なお、次回以降新評議員の推薦にあたっては、各府県ごとに当該年度の評議員と新評議員候補の一覧表および新評議員の推薦理由を記した文書を作成し、審議のための資料とすることとされた。

8. 平成12,13年度役員選挙について

北村陽英選挙管理委員長から経過報告が行われ、選挙締切は5月6日（消印有効）、開票5月12日に行うことが了承された。

9. 名誉会員の推挙について

大阪府より、上林久雄先生を本学会名誉会員に推薦する旨の申し出があり、全会一致で承認した。

10. その他

本学会の50周年記念事業について議論され、50周年記念事業のための準備委員会を設立することが決定された。なお、準備委員会は歴代の幹事長で構成することとされた。

第48回近畿学校保健学会長 三野耕兵庫教育大学教授が挨拶をされた。次いで第47回近畿学校保健学会長 寺田光世京都教育大学教授より、井上事務局長および事務局担当者が紹介された。